

覚醒の時

講師 常石敬一さん（神奈川大学、科学史）

講演概要

虚大科学の化けの皮がはがされた。3月11日まで、僕が虚大科学として考えていたのは「地震予知」学と「結核」学のふたつだった。地震は「原子力」学がそれ以上の虚大科学であり、まさにモンスターと呼ばれるべきものになっていたことを明らかにした。

原子力について僕は『原発とプルトニウム』（2010年4月、PHPサイエンス・ワールド新書）を発表しているが、僕が物理出身だったこともあり、その虚大生に気付かなかった。ただ前記の本では、原子力の研究は広島・長崎に原爆が投下されたことで、物理学を中心とした研究課題はほぼ完了し、残りは出がらしとなった昆布をしゃぶるような、味気ないものと示唆している。

また結核については3月11日までにほぼ書き終え、その後だいぶ改稿・補充した『結核と日本人——医療政策を検証する』（2011年11月、岩波書店）で、日本の結核学研究／結核予防会は「情報宣伝にたけた敗北した医学」であることを示した。

ソ連はチェルノブイリ原子力発電所事故（1986年4月）から5年後の1991年12月に崩壊した。東日本大震災から5カ月後の8月、「日経」は日立と三菱重工の経営統合を報じた。これはその後まだ、進展を見ないが、こうした報道自体、日本株式会社の疲弊を示している。9月には米国で、中東の春に触発され、格差に抗議しその解消を求める運動がはじまった。

2011年、日本だけでなく世界中で新たな動き、従来の枠組みに変革を迫る動きがはじまった。こうした世紀転換期こそ、歴史研究を通じ、現在を根底的に、根源的に理解することが必要だ。そのための科学の歴史の枠組みを考える。（講師記）

●日時：2012年1月22日（日）2時30分～5時30分

●会場：藤沢産業センター（湘南NDビル）6階 コミュニティールーム 1

〒252-0052 藤沢市藤沢109番地（湘南NDビル7階）

電話 0466-21-3811 FAX 0466-21-3800 JR・小田急藤沢駅（北口）徒歩2分

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/center.html>

●参加費：1000円

●連絡先：猪野 修治（INO SHUJI） 湘南科学史懇話会・代表

〒242-0023 神奈川県大和市渋谷3-4-1 TEL&FAX：046-269-8210

email：shujiino@js6.so-net.ne.jp

講師プロフィール

1943年 東京に生まれる。神奈川大学教授、科学史専攻。

主な著訳書

- 『ヒトラー政権と科学者たち』 A・Dバイエルン著（翻訳）岩波現代選書、1980年
- 『標的・イシイー731部隊と米軍諜報活動』 大月書店、1984年
- 『奇病流行性出血』（共著）新潮社、1985年
- 『コペルニクス革命』 トーマス・クーン著（翻訳）講談社、1989年
- 『七三一部隊—生物兵器犯罪の真実』 講談社現代新書、1995年
- 『ヒポクラテスの西洋医学序説』（地球人ライブラリー）小学館、1996年
- 『日本科学者伝』（地球人ライブラリー）小学館、1996年
- 『化学犯罪—関東軍第七三一部隊』 朝日文庫、1999年
- 『毒—社会を騒がせた謎に迫る』 講談社、1999年
- 『化学物質は警告する—「悪魔の水」から環境ホルモンまで』 洋泉社、2000年、
- 『疫病最終戦争』（共著）講談社、2001年
- 『毒物の魔力—人間と毒と犯罪』 講談社現代新書、2001年
- 『謀略のクロスロード—帝銀事件捜査と731部隊』 日本評論社、2002年
- 『核・細菌・毒物戦争—大量破壊兵器の恐怖』 ジェシイカスターン著（翻訳）講談社、2002年
- 『化学兵器犯罪』 講談社現代新書、2003年
- 『戦場の疫学』 海鳴社、2005年
- 『原発とプルトニウム』 PHP新書、2010年
- 『結核と日本人—医療政策を検証する』 岩波書店、2011年